

## “この川さえ無かったらなァ” ... 「魔の川」でもあった旧十勝川

とうないしん すいりょう  
 統内新水路のルートは、最初の計画から変えられて  
 います。そこには、最初の計画予定地であった川合地  
 区（池田町）の人たちの「入植以来洪水とたたかいた  
 がら守り、つくり上げてきた畑の土がほられ、堤防に  
 使われることは許せない」という声と、打内太（豊  
 町北栄）や育素多（豊頃町）の人たちの「毎年のよう  
 に洪水をもたらす十勝川は、無くなってほしい川だ」  
 という思いがありました。（ p190）

昭和63年（1988）、統内新水路の記念碑が建てられた  
 ことに寄せた、嵐正義さんの文章を紹介します。

先人たちの勇気を讃えて 嵐 正義

今回、十勝川新水路五十周年記念事業として、「記  
 念碑」建立が実現したことに対し、町並びに関係機関  
 のご理解とご援助のおかげと、心から感謝申しあげま  
 す。

これが実現するに至ったそもそもの起因は、昭和六  
 十年（1985）十月、豊寿大学文学科主催の“豊頃よも  
 やま話座談会”（北栄、十弗、礼文内地区）での古老の  
 ご発言でありました。

この地区の昔を知るためには、先ずもってこの地を  
 流れていた旧十勝川の洪水を切り離しては語れない位、  
 洪水に苦しめられた土地柄でありました。

古老方のお話しによりますと、洪水の度に川は母な  
 る川から魔の川に変身し、幾多の人命と畜命を奪い、  
 更に一年の稔りを根こそぎもぎとり、人々をして、父  
 祖が志して入植したこの地を捨て高台地区に移住しな  
 ければならぬ程、苛酷をきわめ、洪水は、大なり小  
 なり毎年のように襲ったとのことでありました。

そんな折、十弗市街地に説教所を開いて布教活動  
 しておられた泉沢天外師のもとに集まった人たちが、  
 茶のみ話の中で、毎年暴れる十勝川への愚痴から、「こ  
 の川さえ無かったらなァ」とこぼした一言からヒント  
 を得て、この川の流を統内側に変えることが出来な  
 いかと話が弾み、「やれるだけやってみよう」とすぐ  
 さま行動に移った先達たちは、町に道にと、誠意を持  
 って陳情に当られました。

土地を愛し、家族を愛した先達たちの情熱は、地域  
 を動かし、行政を動かし、絶対実現しそもない、夢  
 物語に等しい“たわごと”を、立派に町づくり、国づ  
 くり結びつけたのであります。

せん だつ とう ほん せい そう  
 先達たちの東奔西走のご苦労が実り、昭和十二年完  
 成された新水路に川の流を切り換えたことにより、  
 水害のない現在の肥沃な穀倉地帯に生まれ変わったの  
 であります。

これもひとえに、この人たちを後で支えたご家庭  
 や、“たわごと”にも似た発想にも、誠意をもって対  
 応された町村や道、国のご援助のおかげと、只々、頭  
 を下げのみであります。

そして、住民主役の地方自治のお手本として、いつ  
 までも町の歴史に残る記念碑建立をのぞむ古老のお言  
 葉に私共は感動し、実現のための協力を誓いあったの  
 です。

時、あたかも水路完成五十年という節目の年を迎え  
 るに当り、文学科にて記念碑建立の趣意書を作り、当  
 該地区の区長会に訴えたところ、早速これが実現のた  
 めに、地域や行政に図られ、現在に至ったのでありま  
 す。

これで水害と闘った当時の人々や、水路変更のため  
 に家業を省みず地域のために献身された先達たちのご  
 苦労も些少なりとも報われると、喜ぶものであります。

この川との生活に明け暮れた人々の苦しみは、村上  
 五作氏が“豊頃よもやま話”（町民芸誌『河口』に  
 発表）の中でつぶさに書かれていますので省略します  
 が、夢物語りにも等しい発想を採り上げられた行政の



昭和63年（1988）、茂岩橋下流の堤防に建てられた「十勝川統内新水路記念碑」と、あとで後ろに取りつけられたプレート。

1 豊寿大学（ほうじゅだいがく）：豊頃町の高齢者学級。さまざまな分野の「科」がある。  
 2 よもやま話（四方山話：よもやまばなし）：いろいろな話。  
 3 先達（せんだつ）：ある方面でりっぱな仕事を、あとの人を導く人。先輩（せんぱい）。

4 陳情（ちんじょう）：えらい人、とくに議会や政治家、役所などに今のようすを述べて、何とかしてくれるようたのむこと。  
 5 たわごと：ばかげたこと。

第1章 十勝の平野や川がでるまで  
 第2章 先史時代と川  
 第3章 アイヌ文化と川  
 第4章 十勝開拓と川  
 第5章 発展、そして未来へ  
 用語  
 さくいん

けつだん ささき せんだつ こうせき えいえん  
決断と、それを支えた多くの先達たちの貢績を、永遠  
に記念できるこの碑の建立は、正に時期を得た快挙と  
して、心からの拍手をおくりたいと思います。

わが郷土豊頃の開拓の歴史の中に、二宮報徳会の偉  
業と併せて、この先達たちの偉業も町史を飾ることで  
しょうが、最後に私共が古老からお聞きした勇気ある  
先達のご芳名を記しましたが、ご芳名の洩れがありま  
したらお許し下さい。

- 元豊頃村長 小林 官太 元豊頃村議 美馬 清作
  - 元豊頃村議 石田 平蔵 元豊頃村議 堀田謙次郎
  - 元道会議員 山本与七郎（池田町）
  - 豊頃側住民 山崎惣次郎 豊頃側住民 吉村政治郎
  - 豊頃側住民 竹田 夏樹 川合側住民 神谷 兵作
  - 川合側住民 神谷 常吉 川合側住民 久保田康雄
- （敬称略）  
（『豊頃よもやま話作品集 あかだも』より  
漢字・かなづかいなどは原文のまま）

上の文章の中に出てきた、村上五作さんによる、水  
害の苦しみを描いた文章を一部紹介します。  
昭和10～11年（1935～36）、統内新水路の工事が進  
む中、しかし、洪水は完成を待ってくれません。明治  
31年（1898）や大正11年（1922）の時以外にも、何度  
も洪水はおそいかかってきたのです。

曲がっていた川 村上 五作  
（前略）治水工事にのぞみを託し、統内原野の夜明け  
を信じて、打内太に四戸、育素多地区に九戸の人たち  
が住んで居りました。

昭和十年、島流しにされたような不安な気持ちで、  
この地に分家して参りました私たち夫婦は、この人々  
に暖かく迎えられ、新生活の第一歩を踏み出したので  
した。私ども夫婦は、作付の済んだ畑を嬉しさに、一  
生懸命除草管理に励み、近所の人たちも賞められるよ  
うな作物に発育させました。

ところが、その夏の終りに、早くも一回目の試練が  
やってきました。一町二反位作付した辛子を収穫した  
その夜から降り始めた雨は、三日三晩降り続き、まだ  
雨の晴れぬうちより十勝川は泡立ちをはじめ、その上、  
大西風を伴い二十時間位増水が続き、川岸の耕地は見

るまに水没し、刈り取って荷穂に積んであった燕麦等  
も、次々と流されてしまいました。

辛子は、手伝いに駆けつけてくれた本家の兄たちに  
より二階に上げてもらい、かろうじて助かりましたが、  
馬は、膝まで水につかりっぱなしでした。私宅は、普  
通地より三尺位高い所にありましたが、床上二尺、地  
上四尺位の水がつかました。普通平地では、七尺位の  
浸水だったと思います。（1尺＝約30.3cm）

燕麦類は流れ、豆類は全部腐れてしまいました。唯  
一の収穫は、辛子三十俵位のものでした。勿論、家の  
周りに積んであった薪もすっかり流れ去っていました。

次の年は、父の援助で作付をすることができました。  
この年、春先より晴天続きで、「今年は良いでしょう」  
と村の古老方も言われるし、私どもも、何とか今年は  
穫らせて貰えるだろうと、張り切って作付も終り、小  
学校で行われる地域運動会等を見にも行かず、除草に  
努力しておりました。

七月の月上旬頃、長い晴天続きで、一雨欲しいと人々  
が言っているうちに、待望の雨が降り始めました。七  
月十一日だったと思いますが、人々の喜びも束の間、  
雨は三日続きの豪雨となり、雨足が白いカーテンのよ  
うになって風に送られては降りつぎ、それはすさまじ  
いものでした。

四日目の夕方、雨は止みましたが、それから一昼夜  
増水し続けました。そして、泥色の水は、畑や野菜を  
ことごとく埋没してしまいました。「畑作物は、花時  
を外れれば何とかなるものだ」という人々の期待を嘲  
笑のように、水の引いて行った後より、豆類は、「ぐ  
にやり」と倒れていってしまいました。麦類なども殆  
どが枯れ、生き残った物も唯ポーっと実の入らない空  
穂がお盆近くになってから出たくらいで、ビートも水  
引きの悪い所は腐れてしまいました。（後略 p191）

（『豊頃よもやま話作品集 あかだも』より  
漢字・かなづかいなどは原文のまま）



「十勝川統内新水路記念  
碑」の位置。豊頃町、茂岩  
橋下流の左岸堤防。  
礼文内川がもとの十勝川。

6 些少（さしょう）：わずかであること。少し。  
7 豊頃よもやま話作品集 あかだも（とよころよもやまばなしさくひんしゅう あかだも）：  
豊頃町豊大学文学科（ぼうじゅだいがくぶんがくか）（1）が編集。

8 分家（ぶんけ）：親の家や農地（本家：ほんけ）から出て、新たに一家を構えること。  
9 荷穂（にお）：豆やえんばくなどの作物を、クキごと刈り取ったあとがかわすために、  
まとめて積みあげたもの。

第1章 十勝の平野や  
川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展  
そして未来へ

用  
語

さ  
く  
い  
ん